

## 明石の史跡（51）第一艦隊の公開



世界の注目を集めたワシントン会議。目玉は、英米日3国の主力艦の保有量を10:10:6という数値で明記し、制限したことである。大正11年（1922）2月6日の海軍軍縮条約調印で、全日程が終了。極東における3国の協調体制が構築された。

調印から一月余を経た3月10日、魚住村役場より各区長・班長に宛て、22日から3日間神戸に入港・碇泊する第一艦隊（戦艦6隻・巡洋艦7隻・駆逐艦14隻・潜水艦7隻）の拝観（22、23の両日）が許可された旨の通達がなされた。ただし心得としては、「幼年者又ハ扶擁ヲ要スルモノ」は危険なので遠慮をのぞんでいる。拝観の時間帯は、午前9時から午後3時まで、艦内での下駄の使用は不可。艦内における婦人の用便は困難との項目がある（山崎眞一氏所蔵文書）。

数値的なものは不詳とはいえ、多くの神戸市民を始め、ここ魚住村からも参加者はあったろう。かれらが目にした6隻の戦艦は、

長門（39.130トン）	陸奥（39.050トン）
伊勢（35.800トン）	金剛（31.720トン）
霧島（32.156トン）	比叡（32.156トン）

であり（写真集日本海軍艦艇ハンドブック）、まさに日本海軍の主力艦隊であった。ワシントン会議により、八八艦隊（戦艦8隻・巡洋艦8隻）という建艦計画は、放棄せざるをえなかったとはいえ、史上最初の41センチ砲を搭載した長門と、それにつづく陸奥の威容には、素直に圧倒されたことであろう。

昭和15年（1940）におこなわれた神戸での観艦式（6歳の筆者の記憶に誤りがなければ）。再度山上から眺めていた市民の多数は、心強く思ったろう。しかし、海を埋め尽くしたあの巨大な艦船群が、4年後に消滅する運命にあったとは、予測できなかったのである。